

中小企業景況情報

本情報は、県内12商工会で実施した中小企業景況調査の集計結果(179企業)をまとめた

建設業

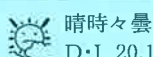
発行・長崎県商工会連合会
長崎市桜町4-1
長崎商工会館8階
問い合わせ先 TEL 095(824)5413

〔主要景況項目の動向〕

期 主要項目	2018年 7月～9月	2018年 10月～12月	2019年 1月～3月	2019年 4月～6月	2019年 7月～9月	2019年 10月～12月 (見通し)
売上額						
採算						
資金繰り						
業況の動向						



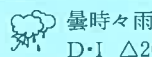
晴 D・I 50.1～100



晴時々曇 D・I 20.1～50



曇 D・I 20～△20



曇時々雨 D・I △20.1～△50

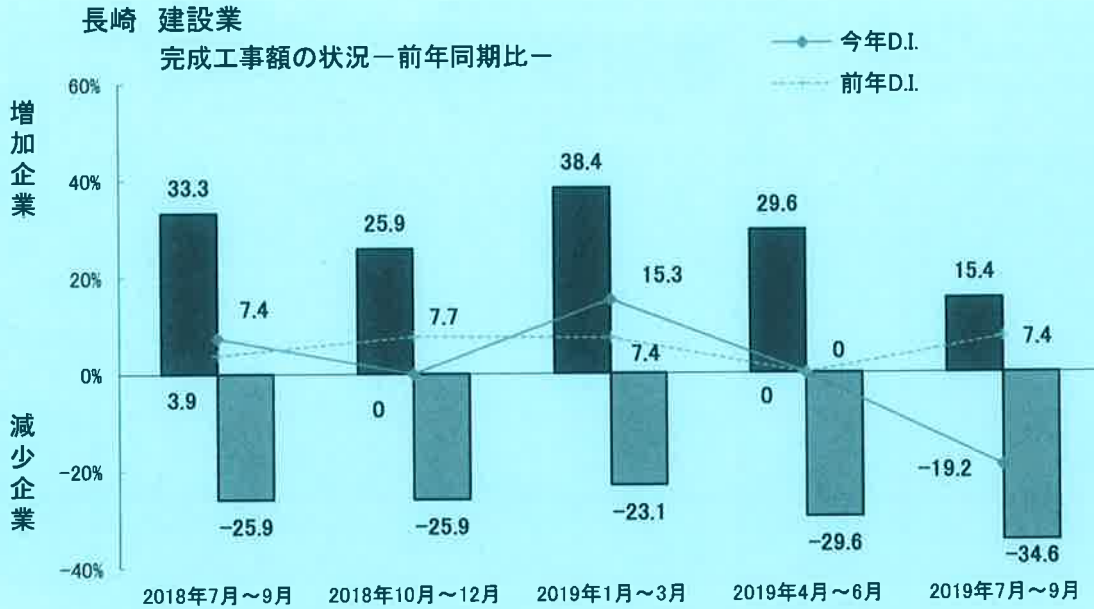


雨 D・I △50.1～△100

〔調査対象企業のコメント〕

製造業	<ul style="list-style-type: none"> ・前期より好調だったが、8月以降の受注が減少しているのが心配で、他社に声をかけている。 ・毎月の卸売は変わらないが、小売の注文が多いか少ないかによって利益が変わる。 ・従業員が高齢化し退職者も増加したものの、新たに雇用できる人材が少ない。外国人雇用も検討していかなければならないが、住居の確保等の問題もあり踏み出せない。 ・引合いは増加していますが、需要が落ちているのか、取引先の発注数量が減少している。新規が増加しても、今までの取引先の減少もあり厳しい環境であると思う。 ・10月からの消費税増税で、今後の見通しが立たない。少しでも増税前に仕事があればいいのだが。
建設業	<ul style="list-style-type: none"> ・今期の完成工事額は減少しているが、兼業の事業売上があった為、資金繰りは安定している。 ・現在の入札制度による不安定さがある。現在は下請の工事がある為、どうにかやりくりできている。 ・この数ヶ月、韓国人の投資による工事の問い合わせや見積の依頼はなくなった。それに依存していた訳では無いが、全体的に減った。他でリフォームの相談は増えた。 ・夏休み期間の小中学校エアコン設置工事で設備関係は景気を呈しているが、建築に於いて新規工事は見込めずリフォーム工事を主体に展開している。又、従業員の高齢化が進む中、労働時間等諸問題を抱え、今後の方向性を捜している。
小売業	<ul style="list-style-type: none"> ・主力の酒類においては、夏の中元繁忙期を迎え期待を寄せていたが、中年層のお中元離れ、ディスカウント店への移行等で思うように伸びず期待外れに終わった。10月には消費税増税を控え、先々の見通しは立たない現況。 ・POS機を増税やキャッシュレス対策として新しく導入することにした。売上減少の中、老朽化等での投資をする状況で、今後の見通しがつかず大変不安。増税の影響もどれくらいなのか分からない。今まで以上に厳しい状況を覚悟している。 ・経営のあり方を根本的にも見直さなければいけなくなっている。消費増税、人材不足、原材料の高騰などがじわじわと迫ってきている。そこに対応できる経営力を磨いていくしかないようだ。 ・これまでも客単価の変動が売上額の増減に関係していたが、今期と前年同期の比較で鮮明になったのが客数の減少である。今後も減少していく事が予想される中で、業況もますます悪化していきそうだ。 ・人口減少、客の高齢化により購買力低下、通販等の普及により地元小売店での買物が減少している。消費税10%への増税に伴い消費の落ち込みが心配。又、キャッシュレス決済と軽減税率対策などで経費が増え、大変。
サービス業	<ul style="list-style-type: none"> ・近年、採算の悪化が続き、競合店の増加や原価高騰による対応の仕方を根本的に見直すことが急務となっている。集客方法から再チャレンジが必要で一番の課題。 ・前期に比べ大人数の宴会が今期は取れていない。仕入価格も上昇しており、経営圧迫している。来季の繁忙期に向け対策が必要。 ・雨が続いたせいか8月の売上が落ちている。私達は技術を売る仕事なので、常に腕をみがいて勉強する必要がある。技術が確実なものであれば価格を下げなくても顧客から選んで頂けると信じ、日々努力を忘れない。 ・今年の夏は、去年に比べ来客数が減ったように感じる。あまり混み合った感じがなかった。お盆前にきれいにするという習慣がなくなってきたように思う。消費税が上がる準備をしないといけないと思っている。 ・10月から消費税が増加するのに伴い、材料費他諸経費の値上げが予測されるが、料金を値上げするには不安を感じつつ、多少の値上げはお客様も納得されるのかとも思う。技術力、表現力の向上が自然と売上に繋がると信じる。

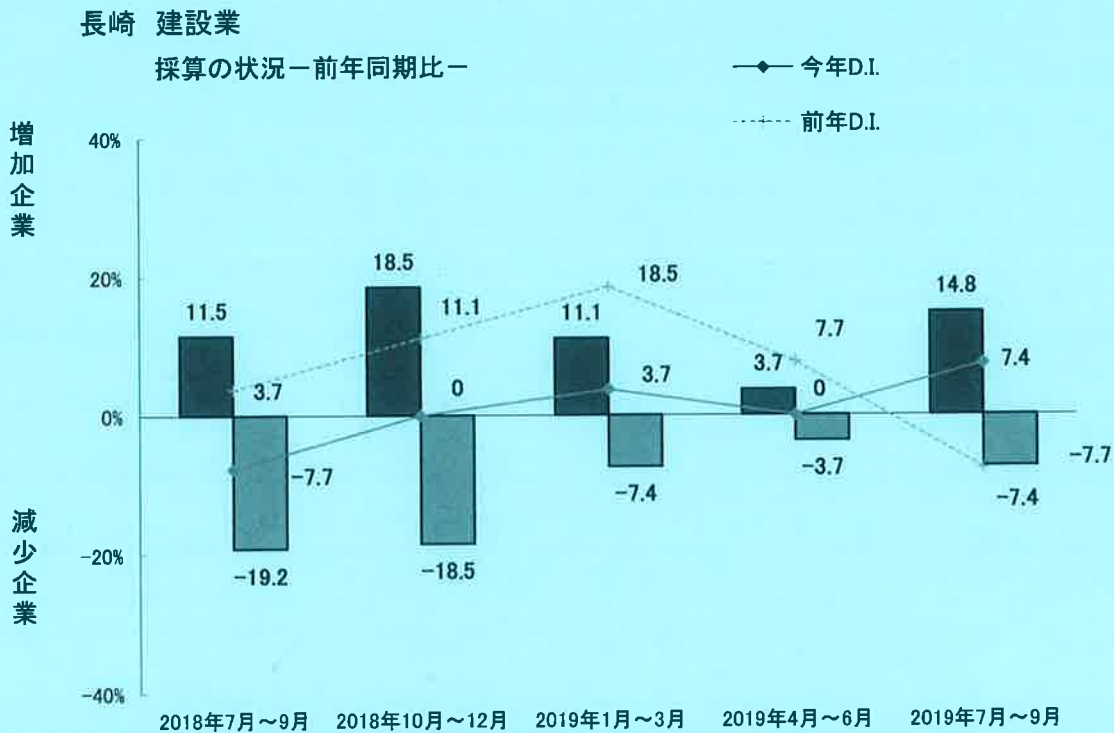
①【建設業】売上の動向



今期、売上が「増加した」と答えた企業は15.4%と、前期の29.6%から14.2ポイント減少した。また「減少した」と答えた企業は34.6%と、前期の29.6%から5.0ポイント増加した。このため今期D・I値は△19.2と、前期の0.0から19.2ポイント悪化した。

「来期の見通し」では、増加すると予測した企業は18.5%、減少すると予測した企業は25.9%で、これにより来期のD・I値は△7.4で、今期の△19.2ポイントから11.8ポイントの改善を予測している。

②【建設業】採算の動向



今期、採算が「好転した」と答えた企業は14.8%で、前期の3.7%から11.1ポイント増加した。一方、「悪化した」と答えた企業は7.4%で、前期の3.7%から3.7ポイント増加している。従って、今期のD・I値は7.4と、前期の0.0から7.4ポイント改善している。

「来期の見通し」では、好転を予測した企業は14.8%、悪化を予測した企業は7.4%で、これにより来期のD・I値は7.4と、今期の7.4と不変との予測をしている。

③【建設業】新規設備投資の状況

※投資内容は複数回答 (%)

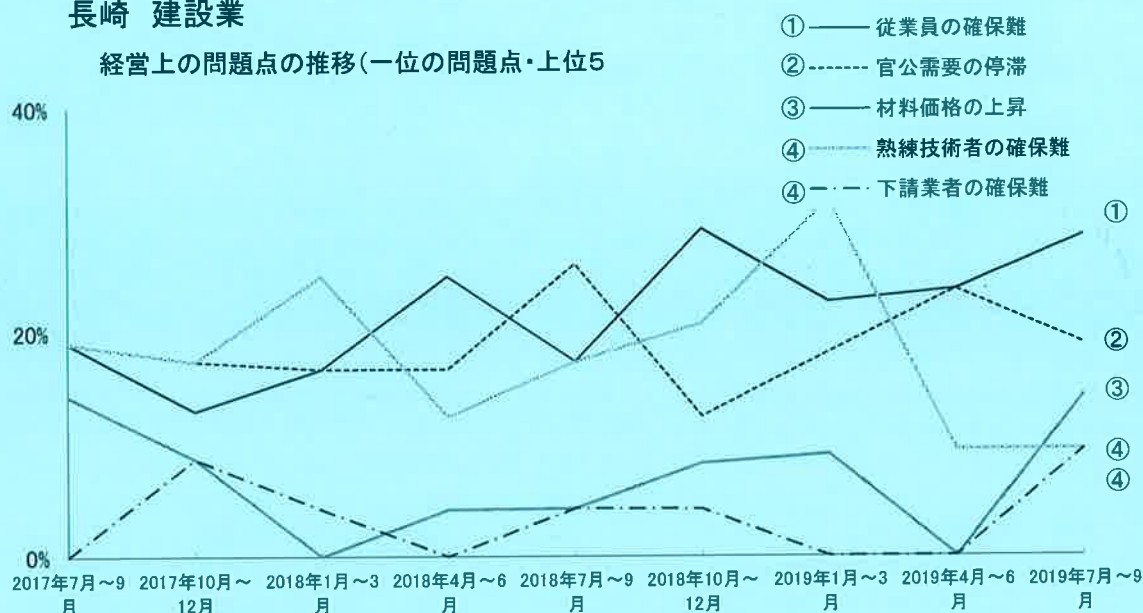
項目 期	実施 して 計 画 る	投資内容								実施 して い 計 画 い
		土 地	建 物	建 設 機 械	車 両 ・ 運 搬 具	付 帯 施 設	O A 機 器	福 利 厚 生 施 設	そ の 他	
今 期 (2019年7~9月)	11.1	0.0	33.3	33.3	0.0	0.0	33.3	33.3	0.0	88.9
来 期 (2019年10~12月)	22.2	0.0	33.3	33.3	16.7	0.0	16.7	0.0	16.7	77.8

今期設備投資を行った企業は11.1%で、前期設備投資を行った企業(18.5%)よりも下回った。来期は22.2%が設備投資を計画している。

④【建設業】経営上の問題点

長崎 建設業

経営上の問題点の推移(一位の問題点・上位5)



今期の経営上の問題点は、「従業員の確保難」が28.6%で第1位で、「官公需要の停滞」が19.0%で第2位であった。第3位は「材料価格の上昇」で14.3%、第4位は「熟練技術者の確保難」と「下請業者の確保難」が共に9.5%であった。従業員の確保難や官公需要の停滞、材料価格の上昇による諸経費の増加、熟練技術者や下請業者の確保難等が大きな問題点となっていることが窺える。

⑤【建設業】来期の見通し

売上(収入)額			採 算			資 金 繰 り			業 況		
2019年 4~6月期	2019年 7~9月期	2019年 10~12月期	2019年 4~6月期	2019年 7~9月期	2019年 10~12月期	2019年 4~6月期	2019年 7~9月期	2019年 10~12月期	2019年 4~6月期	2019年 7~9月期	2019年 10~12月期
0.0	△ 19.2	△ 7.4	0.0	7.4	7.4	7.7	3.7	0.0	3.7	△ 3.7	△ 8.0
傾向	↘	↗	傾向	↗	→	傾向	↘	↘	傾向	↘	↘

(注) ↗ 増加・好転 → 不変 ↘ 減少・悪化を示す

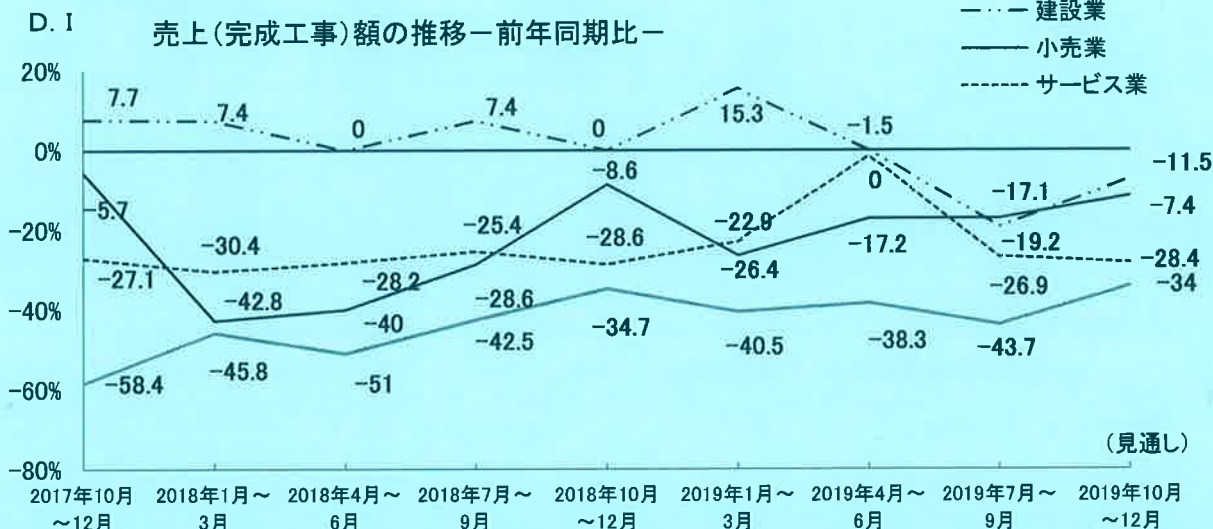
来期の見通しは、「売上(収入)額」は改善を示したが、「採算」では不変を示しており、「資金繰り」、「業況」の2項目については減少を示している。調査対象企業のコメントでは、従業員の確保難、官公需要の停滞や材料価格の上昇等の影響を訴える声が多く、今後も厳しい状況が続いていくものと推察される。

【売上】

今期改善を示した業種は、「製造業」（0.1ポイントの改善）であり、悪化を示したのが「建設業」（19.2ポイント悪化）、「小売業」（5.4ポイントの悪化）、「サービス業」（25.4ポイントの悪化）であった。

来期の見通しでは、改善を示したのが「製造業」（5.6ポイントの改善）、「建設業」（11.8ポイントの改善）、「小売業」（9.7ポイントの改善）で、悪化を示したのが、「サービス業」（1.5ポイントの悪化）であった。

長崎 全産業

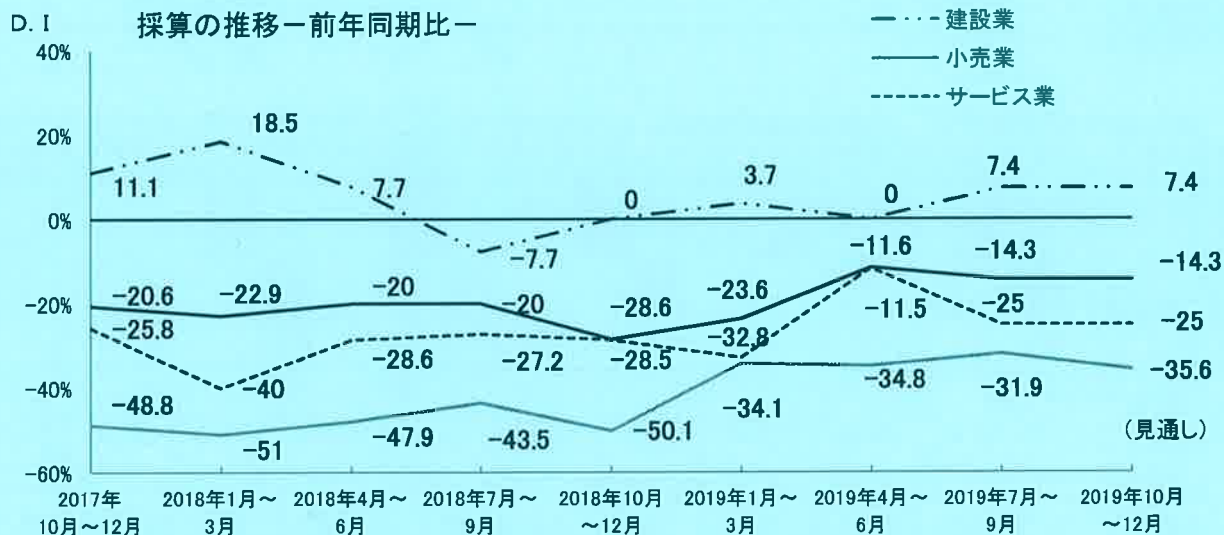


【採算】

今期改善を示した業種は、「建設業」（7.4ポイントの改善）、「小売業」（2.9ポイントの改善）で、悪化を示したのは、「製造業」（2.8ポイントの悪化）、「サービス業」（13.4ポイントの悪化）であった。

来期の見通しでは改善を示した業種はなく、「製造業」（前期同率）、「建設業」（前期同率）、「サービス業」（前期同率）が前期と不変で、悪化を示したのは、「小売業」（3.7ポイントの悪化）であった。

長崎 全産業



本レポートの中で「D・I」とある記号は、ディフュージョン・インデックス(景気動向指数)の略です。

【注】例えば各調査項目について増加(又は上昇、好転、長期化)と答えた企業の割合から、減少(又は低下、悪化、短期化)と答えた企業の割合を差し引いた値を示す表示です。マクロ指標等では表れにくい経営者マインドを敏感につかむ事ができます。